

じきょう

自彊社の碑、塀にあり

…往くも来るも大方のひとは気がかぬまま通り過ぎる。一瞬の人生のようだ 道に沿う古き屋敷の長い塀とて何も語らず…。

しかし、今ここに紹介する塀には心に響くことばがはめ込んである。

伝馬町一丁目、村田屋の角を東に向かう菱田春草生誕地公園の仲ノ町入口。北側はルーテル教会とその幼稚園の塀。この塀にはめ込んだ黒御影石の碑面に、くつきりと彫られた筆文字が『吾らの青春ここにありき 自彊社』である。

自彊社は旧制飯田中学校の自炊団のひとつで、根羽・平谷・浪合・旦開（売木・新野）など出身生徒の宿舍だった。農家の蚕室から始まり初代校長・島地五六先生のお世話で仲ノ町に落ち着き、やがて満室になって上飯田へと、流転の自彊社だった。「吾らの青春ここにありき」は旧制松本高等学校の記念館をヒントに、その熱い想いがこの塀にはめ込まれた…。今は亡き先輩の談。大正から昭和初期がピークだったという。

塀の中には無邪気で可憐な園児たちと若い先生たちの未来の青春の姿がきらめいていた。（牧内）

